

II 大気汚染の状況

1 大気汚染の概況

(1) 大気汚染の監視

大気汚染防止法第 22 条の規定により、県及び大気汚染防止法の政令市は、大気汚染の常時監視を実施し、他の市町においてもそれぞれの地域の状況に応じて監視を実施している。常時監視項目と測定局数は、次の表のとおりである。また、監視地点は、図 II-1 のとおりである。

表 II-1-1 (1) 大気環境監視項目毎の一般環境大気測定局数 (※1)

監視機関 監視項目	県	政令市 (※2)			その他 市町	計
		静岡市		浜松市		
		葵区・ 駿河区	清水区			
二酸化硫黄	10	1	4	6	14	35
二酸化窒素	19	4	5	8	14	50
一酸化炭素	—	—	1	1	2	4
浮遊粒子状物質	15	4	5	8	14	46
微小粒子状物質	5	4	3	6	—	18
光化学オキシダント	19	5	6	11	4	45
非メタン炭化水素	6	1	2	4	2	15
計	74	19	26	44	50	213

(※1) 表の数字は、平成 25 年度の中で廃止及び設置した測定局分を含む。

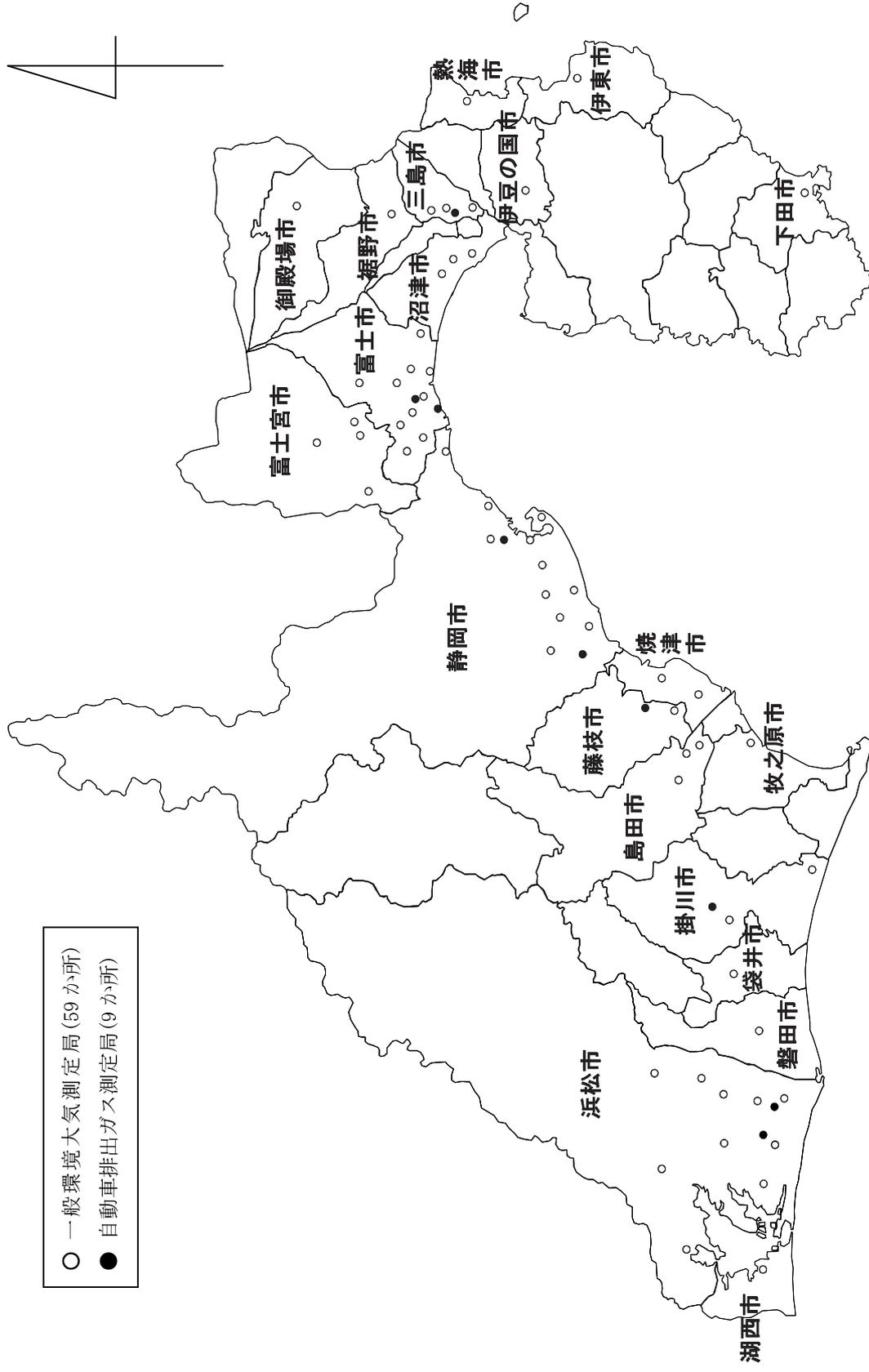
(※2) 大気汚染防止法第 31 条に基づく政令市である。

表 II-1-1 (2) 大気環境監視項目毎の自動車排出ガス測定局数 (※1)

監視機関 監視項目	県	政令市 (※2)			その他 市町	計
		静岡市		浜松市		
		葵区・ 駿河区	清水区			
二酸化硫黄	—	—	1	—	—	1
二酸化窒素	3	1	1	2	2	9
一酸化炭素	3	1	1	2	2	9
浮遊粒子状物質	3	1	1	2	2	9
微小粒子状物質	2	1	—	1	—	4
光化学オキシダント	—	—	—	—	—	—
非メタン炭化水素	3	1	1	2	2	9
計	14	5	5	9	8	41

(※1) 表の数字は、平成 25 年度の中で廃止及び設置した測定局分を含む。

(※2) 大気汚染防止法第 31 条に基づく政令市である。



図II-1 大気環境監視地点

(2) 環境基準

人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準として、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント及び微小粒子状物質についての環境基準が表Ⅱ－２のとおり定められている。

なお、微小粒子状物質については、平成 21 年 9 月 9 日に環境基準が設定された。

表Ⅱ－２ 大気環境に係る環境基準とその評価

項目	環境基準	評価	
		短期的評価	長期的評価
二酸化硫黄 (SO ₂)	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。	1 日平均値の年間 2 % 除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。
二酸化窒素 (NO ₂)	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。	—	1 日平均値の年間 98% 値が 0.06ppm を超えないこと。
一酸化炭素 (CO)	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。	1 日平均値の年間 2 % 除外値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。	1 日平均値の年間 2 % 除外値が 0.10mg/m ³ 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。
光化学オキシダント (Ox)	1 時間値が 0.06ppm 以下であること。	昼間(5時から20時まで)の 1 時間値が 0.06ppm 以下であること。	—
微小粒子状物質 (PM _{2.5})	1 年平均値が 15 μg/m ³ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35 μg/m ³ 以下であること。	年間における 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当するもの(1 日平均値の年間 98% 値)が 35 μg/m ³ 以下であること。	1 年平均値が 15 μg/m ³ 以下であること。

(注 1) 1 日平均値は、1 時間値の欠測が 1 日(24 時間)のうち 4 時間を超える場合には、評価の対象としない。

(注 2) 年間の測定時間数が 6,000 時間(微小粒子状物質は 250 日)に満たない測定局については、長期的評価において評価の対象としない。

(3) 環境基準の達成状況

一般環境大気測定局では、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素及び浮遊粒子状物質については、全ての有効測定局で環境基準を達成した。

一方、微小粒子状物質については9局で、また、光化学オキシダントについては依然として全ての測定局で環境基準を達成しなかった。

自動車排出ガス測定局では、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質については、全ての有効測定局で環境基準を達成した。

一方、微小粒子状物質については2局で環境基準を達成しなかった。

大気環境に係る環境基準の達成状況は、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素及び浮遊粒子状物質については長期的評価で行い、光化学オキシダントについては短期的評価を行った。また、微小粒子状物質については、長期的評価、短期的評価の両方を行った。

表Ⅱ-3-(1) 一般環境大気測定局における環境基準の達成状況

物質名		二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	一酸化炭素 (CO)	浮遊粒子状 物質 (SPM)	微小粒子状 物質 (PM _{2.5})	光化学 オキシダント (OX)
項目							
25 年度	測定局数	35	50	4	46	18	45
	有効測定局数	34	49	3	44	14	44
	達成測定局数	34	49	3	44	5	0
	達成率 (%)	100	100	100	100	36	0
24 年度	測定局数	37	50	3	47	14	45
	有効測定局数	32	47	3	44	9	45
	達成測定局数	32	47	3	44	8	0
	達成率 (%)	100	100	100	100	89	0

(注) 有効測定局とは、年間 6,000 時間 (微小粒子状物質は 250 日) 以上測定した局をいう。

表Ⅱ-3-(2) 自動車排出ガス測定局における環境基準の達成状況

物質名		二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	一酸化炭素 (CO)	浮遊粒子状 物質 (SPM)	微小粒子状 物質 (PM _{2.5})	光化学 オキシダント (OX)
項目							
25 年度	測定局数	1	9	9	9	4	—
	有効測定局数	1	9	9	9	4	—
	達成測定局数	1	9	9	9	2	—
	達成率 (%)	100	100	100	100	50	—
24 年度	測定局数	1	10	10	10	4	—
	有効測定局数	1	9	8	9	3	—
	達成測定局数	1	9	8	9	3	—
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	—

(注) 有効測定局とは、年間 6,000 時間 (微小粒子状物質は 250 日) 以上測定した局をいう。

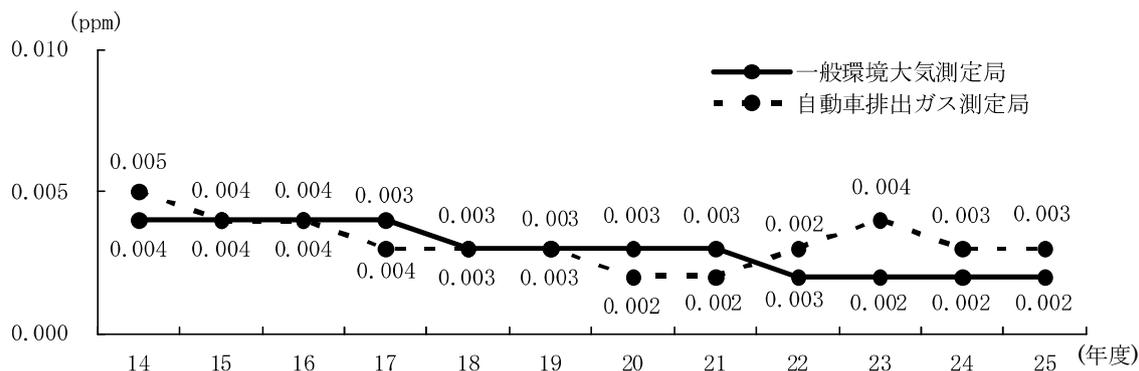
2 汚染物質別の大気汚染の状況

(1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄については、一般環境大気測定局 35 局（有効測定局 34 局）、自動車排出ガス測定局 1 局（有効測定局 1 局）で測定の結果、全ての有効測定局で環境基準を達成した。

年平均値では、一般環境大気測定局は 0.002 ppm、自動車排出ガス測定局は 0.003 ppm で、近年においては、ほぼ低位横ばい状態で推移している。

なお、年平均値の経年変化と環境基準の達成状況の経年変化は、図Ⅱ－2 及び表Ⅱ－4 のとおりである。



図Ⅱ－2 二酸化硫黄の経年変化 (有効測定局平均)

表Ⅱ－4－(1) 二酸化硫黄の環境基準の達成状況 (一般環境大気測定局)

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	57	57	56	56	56	50	42	43	39	36	32	34
達成局数	57	57	56	56	56	50	42	43	39	36	32	34
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表Ⅱ－4－(2) 二酸化硫黄の環境基準の達成状況 (自動車排出ガス測定局)

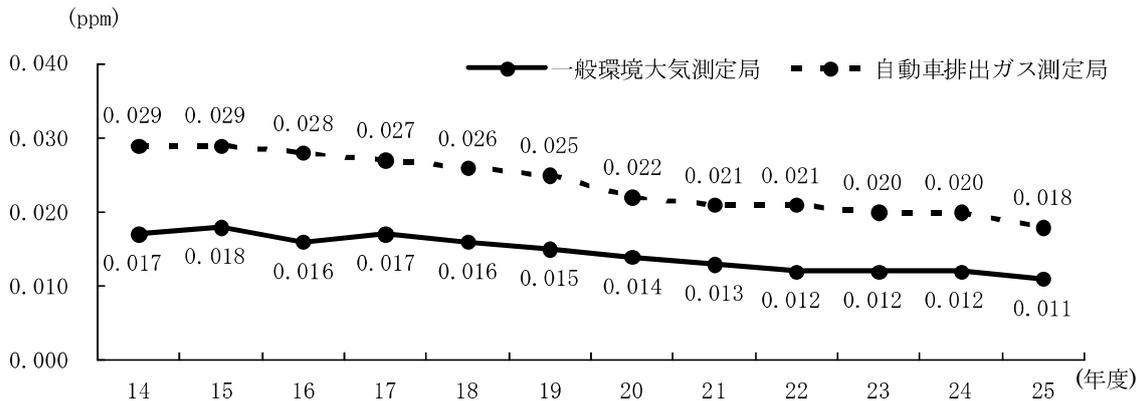
項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	6	6	6	6	6	3	3	3	1	1	1	1
達成局数	6	6	6	6	6	3	3	3	1	1	1	1
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(2) 二酸化窒素

二酸化窒素については、一般環境大気測定局 50 局（有効測定局 49 局）、自動車排出ガス測定局 9 局（有効測定局 9 局）で測定の結果、全ての有効測定局で環境基準を達成した。

年平均値は、一般環境大気測定局は 0.011 ppm であり、また自動車排出ガス測定局は 0.018 ppm と、いずれの値とも、ここ数年はほぼ横ばい状態で推移している。

なお、年平均値の経年変化と環境基準の達成状況の経年変化は、図Ⅱ－3 及び表Ⅱ－5 のとおりである。



図Ⅱ－3 二酸化窒素の経年変化 (有効測定局平均)

表Ⅱ－5－(1) 二酸化窒素の環境基準の達成状況 (一般環境大気測定局)

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	57	57	57	56	56	56	48	52	50	49	47	49
達成局数	57	57	57	56	56	56	48	52	50	49	47	49
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表Ⅱ－5－(2) 二酸化窒素の環境基準の達成状況 (自動車排出ガス測定局)

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	11	11	11	11	11	11	8	10	10	10	9	9
達成局数	11	10	11	11	11	11	7	10	10	10	9	9
達成率 (%)	100	91	100	100	100	100	88	100	100	100	100	100

なお、1時間値の1日平均値の年間98%値が、0.04 ppm から0.06 ppm までのゾーン内であった測定局は、表Ⅱ-6のとおりである。

表Ⅱ-6

二酸化窒素の1日平均値の98%値がゾーン内の測定局(自動車排出ガス測定局)

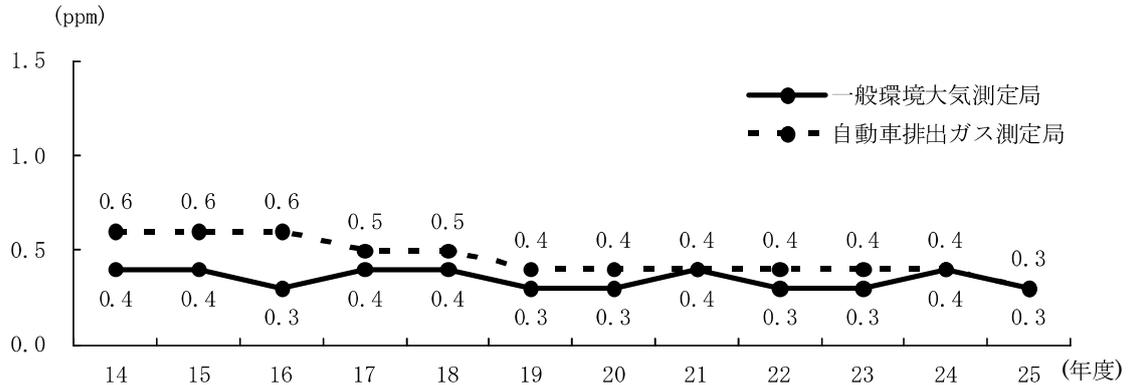
市 町 名	測 定 局	用途地域	日平均値の年間 98 %値(ppm)
富 士 市	自 排 宮 島	住	0.044
	自 排 塔 の 木	住	0.043
静岡市（清水区）	自 排 神 明	準工	0.045

(3) 一酸化炭素

一酸化炭素については、一般環境大気測定局4局（有効測定局3局）、自動車排出ガス測定局9局（有効測定局9局）で測定の結果、全ての有効測定局で環境基準を達成した。

年平均値では、一般環境大気測定局は0.3 ppm、自動車排出ガス測定局は0.3 ppmで近年においては横ばい状態で推移している。

なお、年平均値の経年変化と環境基準の達成状況の経年変化は、図Ⅱ-4及び表Ⅱ-7のとおりである。



図Ⅱ-4 一酸化炭素の経年変化 (有効測定局平均)

表Ⅱ-7-(1) 一酸化炭素の環境基準の達成状況 (一般環境大気測定局)

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	5	5	5	5	5	5	5	3	3	3	3	3
達成局数	5	5	5	5	5	5	5	3	3	3	3	3
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

表Ⅱ-7-(2) 一酸化炭素の環境基準の達成状況 (自動車排出ガス測定局)

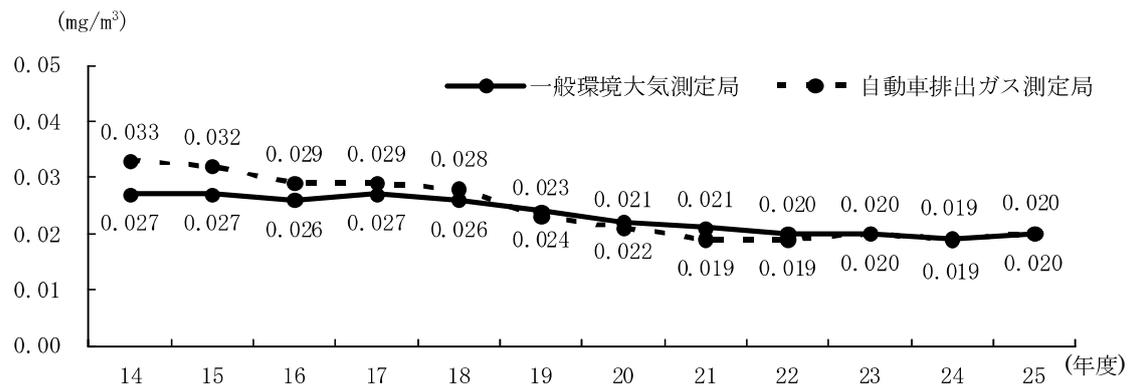
項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	11	11	11	11	11	11	9	10	10	10	8	9
達成局数	11	11	11	11	11	11	9	10	10	10	8	9
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(4) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質については、一般環境大気測定局 46 局（有効測定局 44 局）、自動車排出ガス測定局 9 局（有効測定局 9 局）で測定の結果、全ての有効測定局で環境基準を達成した。

年度ごとの環境基準達成率に変動はあるが、年平均値では、一般環境大気測定局は 0.020 mg/m³、自動車排出ガス測定局は 0.020 mg/m³で、ともに近年では横ばい状態で推移している。

なお、年平均値の経年変化と環境基準の達成状況の経年変化は、図Ⅱ－5 及び表Ⅱ－8 のとおりである。



図Ⅱ－5 浮遊粒子状物質の経年変化 (有効測定局平均)

表Ⅱ－8－(1) 浮遊粒子状物質の環境基準の達成状況 (一般環境大気測定局)

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	52	52	51	51	51	51	45	47	47	47	44	44
達成局数	52	48	51	48	51	44	44	47	47	44	44	44
達成率 (%)	100	92	100	94	100	86	98	100	100	94	100	100

表Ⅱ－8－(2) 浮遊粒子状物質の環境基準の達成状況 (自動車排出ガス測定局)

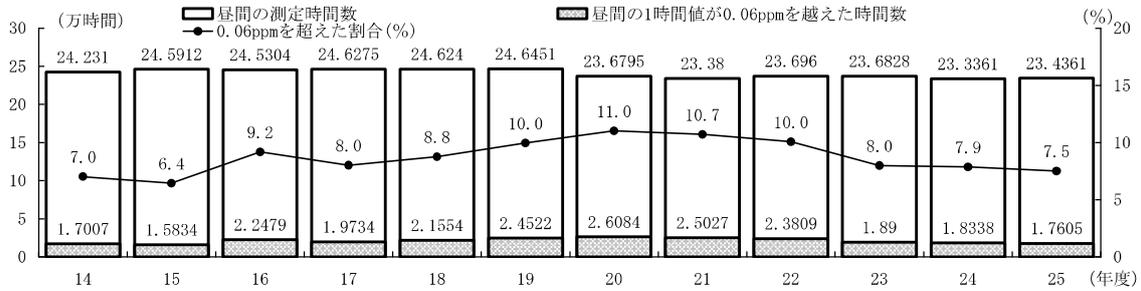
項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	11	11	11	11	11	11	9	10	10	10	9	9
達成局数	11	7	11	9	10	9	8	10	10	10	9	9
達成率 (%)	100	64	100	82	91	82	89	100	100	100	100	100

(5) 光化学オキシダント

光化学オキシダントについては、一般環境大気測定局 45 局（有効測定局 44 局）で測定の結果、全ての有効測定局で環境基準を達成しなかった。

昼間の 1 時間値が 0.06 ppm を超えた時間の割合は、7.5%であった。

昼間の 1 時間値が 0.06 ppm を超えた時間数の経年変化と環境基準の達成状況の経年変化は、図Ⅱ－6 及び表Ⅱ－9 のとおりである。



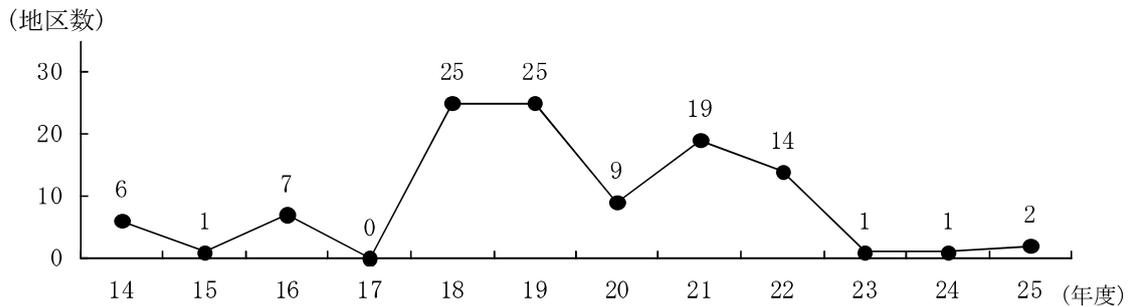
(注) 昼間とは、午前5時から午後8時までの時間帯をいう。

図Ⅱ－6 昼間の 1 時間値が 0.06 ppm を超えた時間数の経年変化

表Ⅱ－9 光化学オキシダントの環境基準の達成状況（一般環境大気測定局）

年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	46	46	46	46	46	46	46	44	44	44	45	44
達成局数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
達成率 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

光化学オキシダントの注意報（オキシダント濃度の 1 時間値が 0.12 ppm 以上の場合に状況に応じて発令）の発令延べ地区数の経年変化は、図Ⅱ－7 のとおりである。



図Ⅱ－7 注意報発令の延べ地区数の経年変化

(6) 微小粒子状物質

微小粒子状物質については、平成 21 年 9 月 9 日に新たに環境基準が設定された。

これに基づき、県内での常時監視に係る整備を進めており、平成 25 年度末までに、一般環境大気測定局 18 局、自動車排出ガス測定局 4 局で自動測定器の設置が完了し、測定を開始した。

平成 25 年度の測定結果は、一般環境大気測定局 18 局（有効測定局 14 局）、自動車排出ガス測定局 4 局（有効測定局 4 局）で測定の結果、一般環境大気測定局では 9 測定局で、また自動車排出ガス測定局では 2 測定局で環境基準を達成しなかった。年平均値では、一般環境大気測定局は $13.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自動車排出ガス測定局は $13.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。また、1 日平均値の年間 98% 値では、一般環境大気測定局は $35.9 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自動車排出ガス測定局は $34.9 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。

なお、年平均値の経年変化と環境基準の達成状況の経年変化は、図 II-8 及び表 II-10 のとおりである。

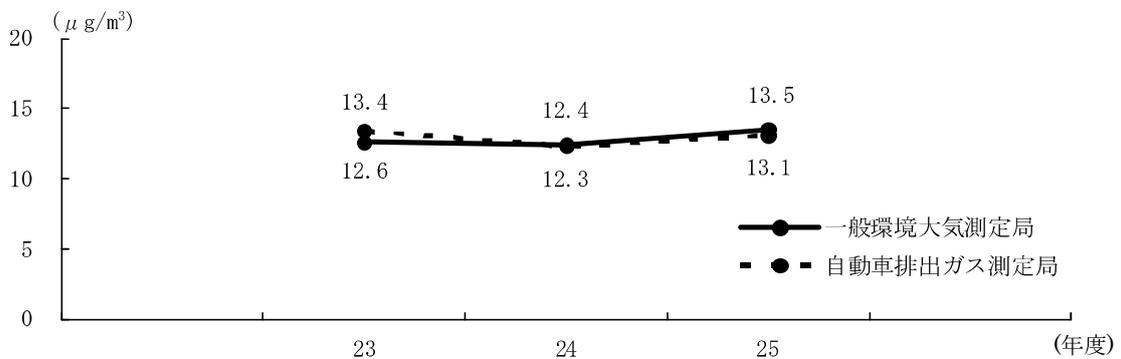


図 II-8 微小粒子状物質の経年変化（有効測定局、年平均値）

表 II-10-1(1) 微小粒子状物質の環境基準の達成状況（一般環境大気測定局）

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	9	14
達成局数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8	5
達成率 (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	89	36

表 II-10-1(2) 微小粒子状物質の環境基準の達成状況（自動車排出ガス測定局）

項目 \ 年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
有効測定局数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	4
達成局数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	2
達成率 (%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	100	50

(7) 非メタン炭化水素

非メタン炭化水素については、一般環境大気測定局 15 局で測定した結果、有効測定局 14 局中 13 局で指針値（表Ⅱ-11-(1)の(注)）を超えた日があった。また、自動車排出ガス測定局 9 局で測定した結果、有効測定局 9 局中 8 局で指針値（表Ⅱ-11-(2)の(注)）を超えた日があった。

なお、非メタン炭化水素の測定結果は表Ⅱ-11 のとおりである。

表Ⅱ-11-(1) 非メタン炭化水素測定結果（一般環境大気測定局）

市名	測定局	用途地域	6～9 時の 3 時間の 平均値			6～9 時の 3 時間 平均値が 0.31ppmC を超 えた日数とそ の割合(注)	
			年 平均値	最高値	最低値	(日)	(%)
			(ppmC)	(ppmC)	(ppmC)		
熱海市	熱海総合庁舎	商	0.15	0.33	0.06	1	0.3
沼津市	勤労青少年ホーム	住	0.13	0.56	0.01	6	1.8
富士市	救急医療センター	工	0.21	1.86	0.02	40	12.5
	南松野	住	0.08	0.23	0.02	0	0
富士宮市	市役所	住	0.22	0.64	0.04	42	11.6
静岡市(清水区)	元蒲原支所	住	0.10	0.38	0.02	1	0.3
	清水区役所	商	0.19	0.43	0.05	27	7.4
静岡市(葵区・駿河区)	常磐公園	商	0.11	0.36	0.04	2	0.5
島田市	市役所	住	0.14	1.97	0.02	23	6.6
藤枝市	大気測定局	住	0.14	0.41	0.02	3	0.8
磐田市	市役所	住	0.16	0.44	0.05	10	3.2
浜松市	中央測定局(西部中学校)	住	0.12	0.37	0.00	2	0.6
	東南部測定局(南陽中学校)	住	0.19	0.58	0.05	38	10.6
	西部測定局(神久呂小学校)	未	0.26	0.59	0.18	44	12.2
	北部測定局(葵が丘小学校)	住	0.04	0.12	0.00	0	0.0

※ 南松野測定局以外で、年間測定時間が 6,000 時間以上であった。

(注) 昭和 51 年 8 月 13 日付けで、中央公害対策審議会から「光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針について」の答申がなされ、その指針値として、光化学オキシダントの日最高 1 時間値 0.06ppm に対応する午前 6 時から午前 9 時までの非メタン炭化水素の 3 時間平均値は 0.20ppmC ～ 0.31ppmC の範囲にあることが示された。

表Ⅱ-11-(2) 非メタン炭化水素測定結果（自動車排出ガス測定局）

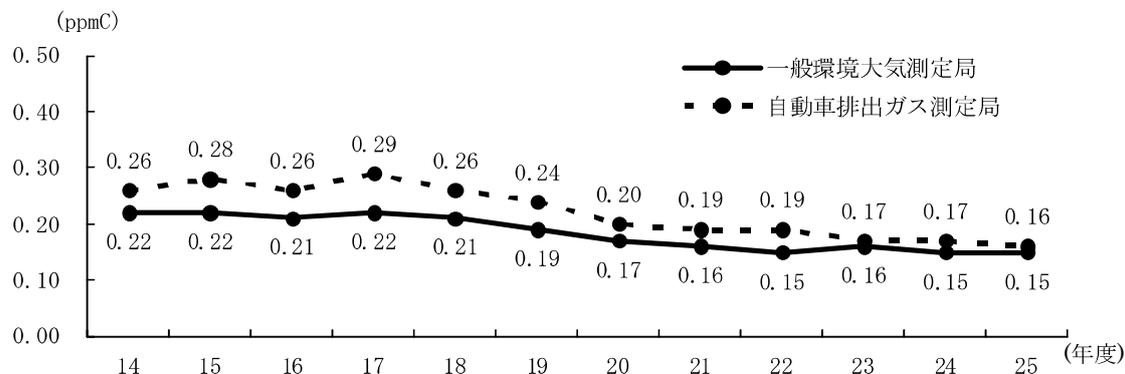
市名	測定局	用途地域	6～9時の3時間の 平均値			6～9時の3時間 平均値が 0.31ppmCを超えた 日数とその割合(注)	
			年平均値	最高値	最低値	(日)	(%)
			(ppmC)	(ppmC)	(ppmC)		
三島市	自排三島	住	0.17	0.51	0.04	12	3.4
富士市	自排塔の木	住	0.35	0.99	0.13	216	60.5
	自排宮島	住	0.15	0.50	0.02	7	2.4
静岡市(清水区)	自排神明	準工	0.17	1.40	0.03	16	4.4
静岡市(葵区・駿河区)	自排丸子	住	0.11	0.48	0.03	1	0.3
藤枝市	自排藤枝	住	0.07	0.30	0.01	0	0.0
掛川市	自排掛川	住	0.11	0.32	0.04	2	0.6
浜松市	R-257(伝馬町)	商	0.16	0.41	0.04	5	1.4
	R-150(相生公園)	商	0.15	0.62	0.03	14	4.1

※ 全ての測定局で、年間測定時間が6,000時間以上であった。

(注) 昭和51年8月13日付けで、中央公害対策審議会から「光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針について」の答申がなされ、その指針値として、光化学オキシダントの日最高1時間値0.06ppmに対応する午前6時から午前9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は0.20ppmC～0.31ppmCの範囲にあることが示された。

有効測定局における午前6時から午前9時までの3時間平均値の年平均値では、一般環境大気測定局は0.15ppmC、自動車排出ガス測定局は0.16ppmCで、近年においてはわずかながら減少傾向を示している。

なお、年平均値の経年変化は、図Ⅱ-9のとおりである。



(注) 午前6時～午前9時までの3時間平均値の年平均値

図Ⅱ-9 非メタン炭化水素の経年変化（有効測定局平均）

3 大気測定局測定結果

(1) 一般環境大気測定局

市町名	測定局	用途地域	二酸化硫黄 (1日平均値0.04ppm以下)			二酸化窒素 (1日平均値0.04~0.06ppm以下)			一酸化炭素 (1日平均値10ppm以下)			
			年平均値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	年平均値 (ppm)	日平均値 の98%値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	年平均値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	
下田市	市役所	商										
熱海市	熱海総合庁舎	商				0.007	0.015	○				
伊東市	市役所	住				0.009	0.023	○				
三島市	市役所	商				0.009	0.020	○				
	徳倉幼稚園	住	0.004	0.009	○	0.003	0.010	○				
	中郷文化プラザ	未	0.003	0.005	○	0.017	0.031	○				
沼津市	勤労青少年ホーム	住	0.001	0.002	○	0.010	0.023	○				
	愛鷹中学校	未				0.013	0.028	○				
	金岡小学校	住				0.015	0.029	○				
伊豆の国市	大仁北小学校	住	0.001	0.002	○	0.005	0.011	○				
裾野市	市民文化センター	未	0.001	0.002	○	0.015	0.030	○				
御殿場市	市役所	住	0.002	0.004	○	0.014	0.032	○				
	市役所	住	0.001	0.002	○	0.011	0.025	○				
富士宮市	富士根南小学校	住	0.004	0.009	○	0.009	0.017	○				
	山宮小学校	未	0.003	0.006	○	0.007	0.013	○				
	桶金公民館	未	0.003	0.006	○							

富士市	救急医療センター	工	0.003	0.004	○	0.020	0.032	○				
	吉原第三中学校	住	0.001	0.002	○	0.018	0.030	○				
	青少年センター	住				0.015	0.025	○				
	元吉原中学校	住	0.001	0.002	○	0.012	0.024	○				
	鷹岡小学校	住				0.014	0.023	○				
	大淵中学校	未	0.001	0.002	○	0.008	0.016	○				
	富士中学校	住	0.001	0.002	○	0.010	0.019	○				
	東小学校	未				0.016	0.029	○				
	富士川第一中学校	住	0.001	0.002	○	0.011	0.021	○				
	南松野	住				(0.010)	(0.020)	—	(0.4)	(0.6)	—	
	元蒲原支所	住	0.003	0.004	○	0.013	0.025	○	0.4	0.5	○	
	清水区役所	商	0.002	0.006	○	0.014	0.028	○				
	三保第一小学校	住	0.001	0.003	○	0.009	0.022	○				
	第七中学校	住										
	庵原中学校	未				0.010	0.020	○				
	静岡市 (清水区)	興津北公園	住	0.002	0.005	○	0.010	0.021	○			
常磐公園		商	0.001	0.003	○	0.010	0.019	○				
千代田小学校		住				0.014	0.023	○				
長田南中学校		住				0.011	0.021	○				
服織小学校		住				0.008	0.015	○				
南中学校		住										
大気測定局		住	0.002	0.004	○	0.011	0.022	○	0.3	0.4	○	
市役所		住	0.002	0.005	○	0.012	0.026	○				
初倉小学校		未	(0.003)	(0.005)	—							
六合小学校		住	0.008	0.015	○							
静岡市 (葵区・駿河区)												
藤枝市												
島田市												

市町名	測定局	用途地域	二酸化硫黄			二酸化窒素			一酸化炭素				
			年平均値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	年平均値 (ppm)	日平均値 の98%値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	年平均値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×		
焼津市	焼津中学校	商				0.012	0.024	○					
	大井川東小学校	他	0.002	0.003	○	0.010	0.022	○					
牧之原市	市役所	住				0.010	0.022	○					
	市役所	住	0.001	0.004	○	0.011	0.022	○					
	大東支所	住				0.008	0.017	○					
袋井市	市役所	住											
	市役所	住	0.002	0.009	○	0.011	0.022	○					
浜松市	中央測定局 (西部中学校)	住	0.004	0.008	○	0.007	0.019	○	0.2	0.4	○		
	東部測定局 (蒲小学校)	住											
	東南部測定局 (南陽中学校)	住	0.001	0.002	○	0.008	0.021	○					
	西南部測定局 (篠原中学校)	住	0.001	0.003	○	0.008	0.020	○					
	西部測定局 (神久呂中学校)	未	0.003	0.006	○	0.006	0.016	○					
	北部測定局 (葵が丘小学校)	住	0.001	0.002	○	0.009	0.023	○					
	東北部測定局 (大瀬小学校)	未				0.006	0.017	○					
	浜北測定局 (北浜小学校)	住	0.003	0.006	○	0.007	0.015	○					
	引佐測定局 (引佐協働センター)	未											
	三ヶ日測定局 (三ヶ日協働センター)	住				0.009	0.024	○					
	天竜測定局 (天竜区役所)	住											
	湖西市	市役所	未	0.002	0.003	○	0.009	0.023	○				

(注) 有効測定局は、年間測定時間が6,000時間以上の測定局をいう。(括弧数字は非有効測定局)
測定局名、市町名は平成26年3月31日現在(一部、年度途中で廃止した測定局を含む。)

市町名	測定局	用途地域	浮遊粒子状物質 (1日平均値0.10mg/m ³ 以下)			微小粒子状物質 (年平均値15μg/m ³ 以下) (1日平均値35μg/m ³ 以下)			光化学オキシダント (1時間値0.06ppm以下)			
			年平均値 (mg/m ³)	日平均値 の2% 除外値 (mg/m ³)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	年平均値 (μg/m ³)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	日平均値 の年間 98%値 (μg/m ³)	短期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	1時間値が 0.06ppm を超えた 日数	1時間値が 0.12ppm 以上の 日数	短期的評価 による環境 基準の適否 適○否×
下田市	市役所	商				(9.3)	—	(25.0)	—	54	0	×
熱海市	熱海総合庁舎	商	0.023	0.055	○					115	6	×
伊東市	市役所	住								60	0	×
三島市	市役所	商	0.021	0.046	○					87	0	×
	徳倉幼稚園	住	0.015	0.039	○							
	中郷文化プラザ	未	0.018	0.043	○							
沼津市	勤労青少年ホーム	住	0.022	0.050	○					114	0	×
	愛鷹中学校	未	0.016	0.042	○							
	金岡小学校	住	0.017	0.053	○							
伊豆の国市	大仁北小学校	住	0.015	0.051	○					75	0	×
裾野市	市民文化センター	未	0.017	0.047	○	12.7	○	30.8	○	80	0	×
御殿場市	市役所	住	(0.017)	(0.030)	—					89	0	×
富士宮市	市役所	住	0.017	0.047	○					73	0	×
	富士根南小学校	住	0.025	0.055	○							
	山宮小学校	未										
	榑金公民館	未										

市町名	測定局	用途地域	浮遊粒子状物質			微小粒子状物質			光化学オキシダント			
			年平均値 (mg/m ³)	日平均値 の2% 除外値 (mg/m ³)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	年平均値 (μg/m ³)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	日平均値 の98%値 (μg/m ³)	短期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	昼間の 1時間値が 0.06ppm を超えた 日数	昼間の 1時間値が 0.12ppm 以上の 日数	短期的評価 による環境 基準の適合 適○否×
富士市	救急医療センター	工	0.030	0.063	○	13.9	○	30.4	○	76	0	×
	吉原第三中学校	住	0.021	0.057	○							
	青少年センター	住	0.019	0.050	○							
	元吉原中学校	住	0.017	0.045	○							
	鷹岡小学校	住	0.024	0.071	○					93	0	×
	大淵中学校	未	0.017	0.069	○					71	0	×
	富士中学校	住	0.018	0.066	○							
	東小学校	未	0.019	0.063	○					104	0	×
	富士川第一中学校	住	0.018	0.071	○					43	0	×
	南松野	住	(0.013)	(0.026)	—							
	元蒲原支所	住	0.025	0.069	○					100	0	×
	清水区役所	商	0.015	0.048	○					76	0	×
	三保第一小学校	住	0.024	0.058	○	13.7	○	33.9	○	119	0	×
	第七中学校	住								106	0	×
静岡市 (清水区)	鹿原中学校	未	0.017	0.057	○	13.4	○	38.1	×	70	0	×
	興津北公園	住	0.026	0.075	○	14.2	○	37.5	×	90	0	×
	常磐公園	商	0.021	0.061	○	13.0	○	35.0	○	85	0	×
	千代田小学校	住	0.022	0.055	○	12.5	○	34.8	○	91	0	×
	長田南中学校	住	0.023	0.068	○	13.0	○	36.3	×	50	0	×
	服織小学校	住	0.014	0.053	○	12.6	○	35.4	×	65	0	×
南中学校	住								82	0	×	
静岡市 (葵区・ 駿河区)												

(2) 自動車排出ガス測定局

市町名	測定局	用途地域	二酸化硫黄 (1日平均値0.04ppm以下)			二酸化窒素 (1日平均値0.04～0.06ppm以下)			一酸化炭素 (1日平均値10ppm以下)		
			年平均値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	年平均値 (ppm)	日平均値 の98%値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×	年平均値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	長期的評価 による環境 基準の適否 適○否×
三島市	自排三島	住				0.015	0.024	○	0.3	0.7	○
富士市	自排塔の木	住				0.026	0.043	○	0.5	0.7	○
	自排宮島	住				0.026	0.044	○	0.4	0.6	○
静岡市 (清水区)	自排神明	準	0.003	0.005	○	0.026	0.045	○	0.3	0.6	○
静岡市 (葵区・駿河区)	自排丸子	住				0.018	0.028	○	0.3	0.4	○
藤枝市	自排藤枝	住				0.014	0.026	○	0.2	0.4	○
掛川市	自排掛川	住				0.013	0.023	○	0.3	0.5	○
	国道257号線 (伝馬町)	商				0.015	0.029	○	0.4	0.6	○
浜松市	国道150号線 (相生公園)	商				0.011	0.024	○	0.3	0.5	○

(注) 有効測定局は、年間測定時間が6,000時間以上の測定局をいう。(括弧数字は非有効測定局) 測定局名、市町名は平成26年3月31日現在(一部、年度途中で廃止した測定局を含む。)

市町名	測定局	用途地域	浮遊粒子状物質 (1日平均値0.10mg/m ³ 以下)			微小粒子状物質 (年平均値15μg/m ³ 以下) (1日平均値35μg/m ³ 以下)			
			年平均値 (mg/m ³)	日平均値 の2% 除外値 (mg/m ³)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	年平均値 (μg/m ³)	長期的評価 による環境 基準の適合 適○否×	日平均値 の98%値 (μg/m ³)	短期的評価 による環境 基準の適合 適○否×
三島市	自排三島	住	0.018	0.050	○	13.7	○	34.0	○
富士市	自排榎の木	住	0.023	0.068	○				
	自排宮島	住	0.023	0.071	○				
静岡市 (清水区)	自排神明	準	0.024	0.061	○				
静岡市 (葵区・駿河区)	自排丸子	住	0.025	0.054	○	13.2	○	35.2	×
藤枝市	自排藤枝	住	0.017	0.047	○				
掛川市	自排掛川	住	0.017	0.048	○	12.4	○	33.8	○
	国道257号線 (云馬町)	商	0.018	0.048	○				
浜松市	国道150号線 (相生公園)	商	0.018	0.048	○	13.2	○	36.6	×

(注) 有効測定局は、年間測定時間が6,000時間(微小粒子状物質は250日)以上の測定局をいう。
測定局名、市町名は平成26年3月31日現在(一部、年度途中で廃止した測定局を含む。)(括弧数字は非有効測定局)